

数学科教育 実技・理論研修会 終了報告

テーマ	数学的活動の充実とその評価	
日時	平成29年 7月14日(金)	
会場	江別市立大麻中学校	
講師	山崎 浩二 氏 (岩手大学 数学教育 教授)	
参加者	27名	
研修会 の 様子		<p>工藤教諭(江別市立野幌中)による3年生に対しての「出前授業」。</p> <p>2つの自然数の積を簡単に求める方法を考えた。積の性質を生徒自身の手で帰納的に見出し、文字を用いて演繹的に説明する学習を行った。</p>
		<p>生徒の中から問いを生み出し、かつ目的意識を高めるよう、「どんな秘密があるの?」「いつでも、どんな数字でも成り立つの?」と、課題の設定や発問を意図的に仕組んでいた。</p> <p>また、思考途中には適宜教師が適切に介入し、生徒を「追い込んでいく」ようすも見られた。</p>
		<p>生徒のつぶやきや考え、数学的に表現したことなどを丁寧に板書し、思考の流れを整理していた。</p>
		<p>授業の事後研究では発問の意図や教師のねらいなど、様々な点で活発な交流がされた。</p> <p>講演会は、当日の授業評価とともに「数学的活動の充実とその評価」というテーマで行った。数学的活動の充実のための課題設定、発問の重要性等、わかりやすく説明があった。</p>
		<p>事例を紹介しながらの講演は参加者にもわかりやすく、真剣な表情が多かった。</p>